

新大使、抱負を語る

パリイ・スティアズ氏が、十月二十六日、天皇陛下に信任状を奏呈、一九五二年に日加間の国交が再開されて以来第八代目の駐日大使として就任した。マルタ夫人と一緒に赴任である。スティアズ大使は、駐ブラジル大使、駐ニューヨーク総領事などを歴任した通商・外交のベテランで、駐日大使に任命されるまでは通商産業省次官補の要職にあった。就任したばかりのスティアズ大使に、今後の日加関係に対する抱負などについて聞いてみた。聞き手は、日本経済新聞社の武田外報部長にお願いした。

武田 駐日大使への就任が決まったとき、まずどういうことをお考えになりましたか。

大使 とても嬉しかったですね。わが国にとって日本との関係はとても重要ですし、対外関係にかかわっている人間ならば誰だってそのことをよく知っています。非常にやりがいのある仕事ですから……。駐日大使の話があったときは本当に嬉しかったですね。

■ 順調な関係

武田 駐日大使としてやるべき一番重要なことは何だとお考えですか。

大使 日加両政府には、相互の関係を発展させるためにできるだけのことをやる、という共通の認識があります。相互の見解が似ているので、両者の間にはとりたてて大きな政治問題もありません。

世界に対する考え方も比較的よく似ています。ですから、経済関係の拡大にもっと時間をさくことができます。経済関係が強化されれば、他の分野にも大いに可能性がでてきます。もちろん、経済関係と政治その他の関係とは表裏一体です。政治関係は緊密ですが、それ以外に文化的、社会的な相互理解——国民相互間の理解——も必要です。民主主義国同士として、うまく理解し合えると信じています。

武田 現在の日加関係をどうご覧になりますか。

大使 過去十五年ぐらいの間に、カナダの対日貿易、日本の対加貿易は着実に伸びてきました。日本からの輸出品は、カナダ全国に行き渡っています。日本を優秀な製品の生産国、重要な技術製品の生産国と考える人は、カナダにはまずいませんね。日本製品を歓迎する人が多く、一方、日本も、小麦、キャノーラ（なたね）油、石炭、塩化カリ、パルプ、ツィバイフオー建築用材……と、西部カナダを中心にカナダから多くの商品を買っており、カナダにとって二番目に大きい貿易パートナーになっています。太平洋、大西洋両沿岸とも、漁場としてきわめて有望で、日本はいずれカナダの水産物の一大輸入国になるだろうと、カナダの業界では期待しています。

カナダはエネルギー資源も豊富です。ご存知のように、先進工業国としては唯一の資源輸出国です。わが国には一般炭、原料炭などいろいろな種類の石炭があり、日本からも大規模な引き合いをいただきます。

ています。日本は、中東全体と同量の石油を含んでいるといわれるわが国のオイルサンドの開発にも、またボーフォート海の石油・天然ガス開発にも参加しています。

■ カナダは太平洋国家

対日関係の発展により、カナダは太平洋国家へと転換しました。これはわたしたちにとってきわめて重要な方向転換ですよ。米国はカナダにとって抜きんで重要な国です。この関係は今後とも変わらないうでしよう。その一方で、日本との強固な関係もわが国にとっても大切です。

武田 カナダは対日貿易収支が黒字という、世界でも数少ない国のひとつですが、日本の自動車輸出問題などについては不満を表明しています。対日貿易が安定しているのに、どうして大騒ぎするのでしょうか。

大使 私は大騒ぎしているとは思いませんね。カナダの対日貿易が黒字だというのはその通りですが、重要な分野においては赤字だということも事実です。日本がカナダからもっと付加価値の高い製品を買ってくれば、（工業地域）中部カナダの日本に対する関心も高まるでしょう。日本が付加価値の高い製品の輸入を増やしてくれば、両国の貿易関係は一層高まるはずですよ。

武田 ところで、日加関係において貿易はもちろん非常に重要ですが、そのほかの、例えば文化や学術などの交流につ



スティアズ新大使